

# 北海道浮魚ニュース

平成 23(2011)年度 4 号

2011 年 6 月 14 日

北海道立総合研究機構水産研究本部  
釧路水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎道東太平洋スルメイカ資源調査結果

- 表面水温は前年より高い。
- スルメイカの分布密度は前年より高い。
- 体サイズは前年より大型。

調査期間 : 2011 年 6 月 7~14 日

調査海域 : 道東太平洋 (北緯 41 度ライン周辺の 7 調査点)

調査船 : 北辰丸 (釧路水産試験場所属), イカ釣機 6 台装備

### 1. 水温分布 (図 1)

調査点の表面水温は 9.8~17.4℃で、前年 (7.9~12.2℃) よりも高めでした。調査海域の西側で 12~17℃台と高く、東側で 10℃前後と低くなっていました。

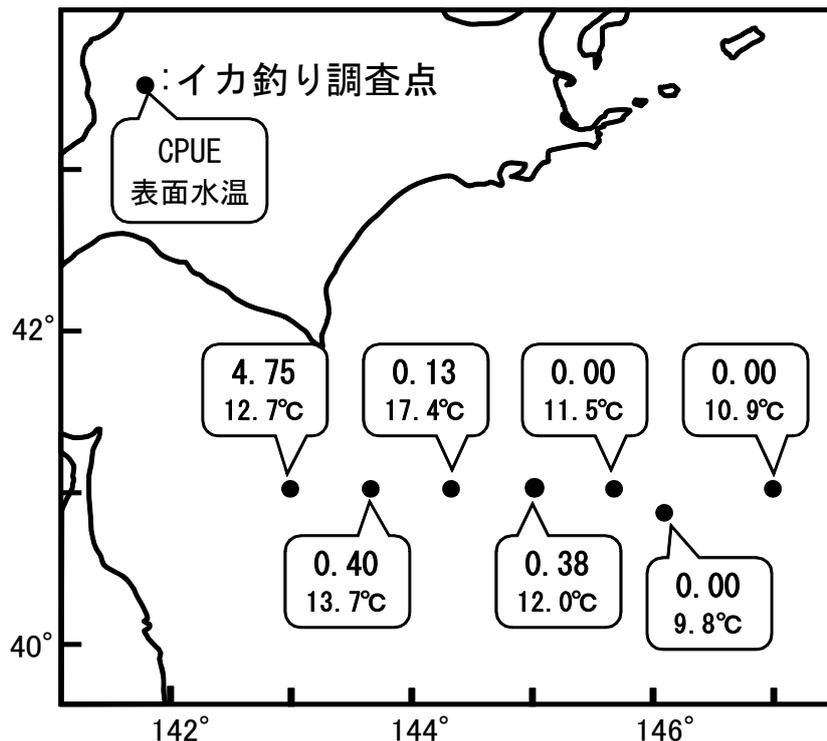


図 1 2011 年 6 月の道東太平洋におけるスルメイカの分布密度と表面水温  
※分布密度は CPUE (イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) で示した。

### 2. 分布と分布密度 (図 1, 図 2)

7 調査点でスルメイカの分布密度を調べた結果、分布密度 (CPUE : イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0.00~4.75 でした (図 1)。スルメイカは調査海域の西側の 4 調査点で漁獲されました。最も分布密度が高かったのは、最も西側の調査点 (北

緯 41 度，東経 143 度) で，CPUE が 4.75 でした。調査海域の東側の 3 調査点では漁獲されませんでした。7 調査点の平均 CPUE は 0.81 で，前年 (0.03) を上回り，2000 年以降では平均並みでした (図 2)。

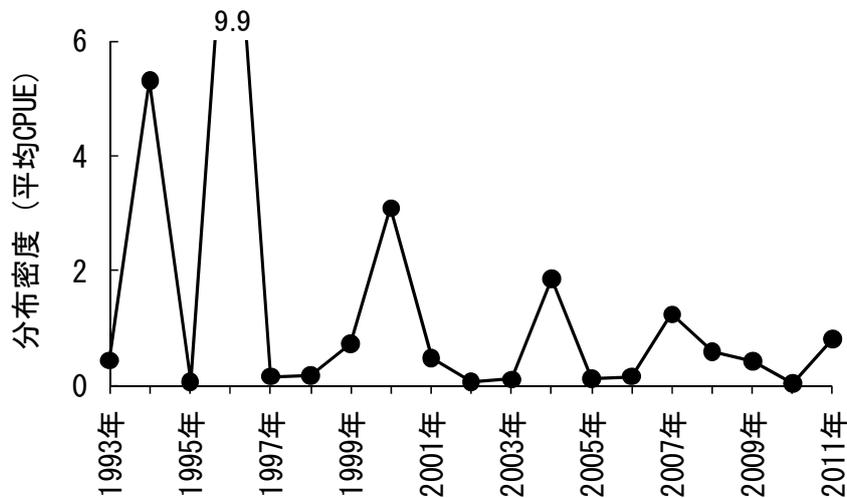


図 2 スルメイカの分布密度の経年変化  
※各年の分布密度は全調査点の CPUE の平均で示した。

### 3. スルメイカの大きさ (図 3)

スルメイカの外套長 (胴長) のモード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 16 cm で，前年 (15 cm) より大型でした。範囲は 6~19cm でした。

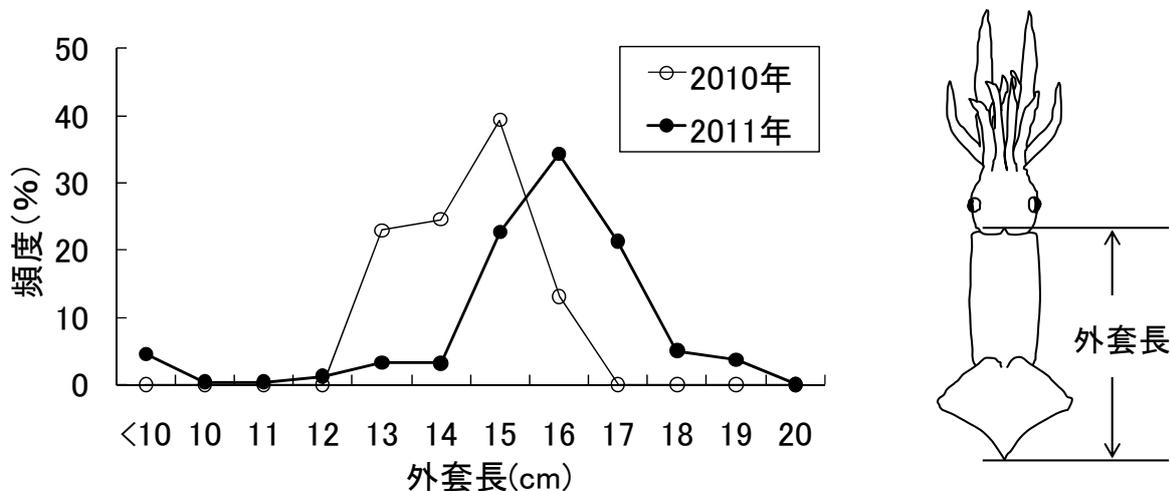


図 3 スルメイカの外套長組成

表 1 2007~2011 年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長組成		調査点数
			範囲(cm)	モード(cm)	
2007年 6/13~20	311	1.24	6-18	14	6
2008年 6/10~17	199	0.59	7-15	13	7
2009年 6/9~17	165	0.43	10-17	14	8
2010年 6/7~14	8	0.03	13-16	15	7
2011年 6/7~14	268	0.81	6-19	16	7

(文責：釧路水産試験場 調査研究部，TEL:0154-23-6222，FAX:0154-23-6225)